

第1回 日本認知症の人の緩和ケア学会学術集会 プログラム

ーいま、どうして認知症の緩和ケアを問うのかー

開催日時：2025年4月20日（日）WEB開催

オンデマンド配信：4月27日（日）～7月31日（木）

学術集会長講演

いま、どうして認知症の緩和ケアを問うのか

座長：平原佐斗司

演者：小川朝生

シンポジウム

BPSD、チャレンジング行動

・座長：遠矢純一郎、鶴屋邦江

・演者：井上真一郎、中西三春、村島久美子、
佐藤勝宣

新しい認知症観が描く未来ー医療安全と
穏やかな暮らしで実現する、身体拘束フ
リーの認知症緩和ケア

・座長：平岩千代子、森林朋英、鈴木みずえ

・演者：佐藤（佐久間）りか、長尾能雅、
稲葉一人、石川容子

認知症の軌跡を踏まえた支援

・座長：森林朋英、吉際俊明

・演者：佐藤香苗、後藤響、那須真弓

認知症の人とのコミュニケーション～3つ
の場面から考える～（しゃべり場）企画

・座長：井上真一郎、鶴屋邦江、桑田美代子
日向園恵、立原玲、佐藤典子

・演者：井上真一郎、名古屋譲、山下いずみ、
谷向仁、岡本明大、木野美和子、小川真寛、
森本景子、副島沙彩

一押し
企画

特別講演

認知症になってからも、
自分らしく生きるために
ー当事者の声から学ぶ

座長：小川朝生、高山陽子

演者：藤田和子

インタビュアー：小森由美子

教育コンテンツ

認知症の緩和ケアアプローチとは？（国際的ガイドライン含む）	小川朝生
末期認知症の人の人工的水分・栄養補給法について	平原佐斗司
急性期入院時のせん妄の予防、評価、対策	井上真一郎
日常生活援助における倫理	吉岡佐知子
末期認知症の人への食支援・コンフォートフィーディングオンリー（CFO）	山田律子
認知症の家族ケアの基本的考え方	川上千春
認知症に伴う精神症状（総論）	内田直樹
身体拘束最小化のマネジメント	日向園恵
身体拘束とは 基本的な考え方、世界の動向、我が国の政策動向	平岩千代子
行動心理症状（BPSD）へのアプローチの基本	野澤宗央
パーソンセンタードケアと認知症の緩和ケア	鈴木みずえ

※プログラムの内容は変更となることがございます。

学術集会長講演「いま、どうして、認知症の緩和ケアを問うのか」

認知症の緩和ケアの現状と本学会の方向性を考えていきたいと思います。教育的なセッションのダイジェストとしても活用いただければ幸いです。

特別講演「認知症になってからも、自分らしく生きるために一当事者の声から学ぶ」

認知症になってからも自分らしく暮らせる社会を実現したい！

看護師として働いていた45歳のとき、若年性アルツハイマー病と診断された藤田和子さんは、当事者の立場で積極的に発言を続けています。著書では、診断後の「空白の期間」の解消が、これから認知症になる可能性のあるすべての人にとって深刻かつ切実な問題であることを指摘しています。

本講演では、認知症経験専門家として、診断後の課題や自己決定を尊重したケアのあり方を語っていただきます。

聞き手は、認知症介護研究・研修東京センター客員研究員の小森由美子さん。

当事者の声に耳を傾け、新しい認知症観に基づく支援のあり方を考える貴重な機会です。ぜひご参加ください。

S-1「BPSD、チャレンジング行動」

あなたの周りで、未だにBPSDを「問題行動」「迷惑行為」などと言い換えている人はいませんか？例えば、認知症の人が怒りをあらわにしている場合、そこには必ず本人なりの理由があります。それをうまく言葉にできないため、怒りによって周りへ伝えようとしているのです。

近年海外において、BPSDは「チャレンジング行動」と呼ばれており、「認知症の人が困った状況乗り越えようとしている結果」などとポジティブにとらえる動きが出てきました。そこで本セッションでは、チャレンジング行動と呼ばれるBPSDへのアプローチをテーマとして、薬物療法の基本をご紹介します。また、多職種の見点からBPSDケアプログラムについてわかりやすく解説します。

明日からの臨床にご活用いただければ幸いです！

S-2「新しい認知症観が描く未来-医療安全と穏やかな暮らしで実現する、身体拘束フリーの認知症緩和ケア」

認知症緩和ケアにおける身体拘束最小化は、新しい認知症観に基づき、尊厳を守り安全で穏やかな暮らしを実現するための基本です。本シンポジウムでは、医療安全の専門家、看護師、弁護士、そして母親が入院時に身体拘束を受けた経験を持つ家族など、多彩な立場のシンポジストが登壇し、現場の実情に即した議論を展開します。身体拘束がもたらす影響、せん妄・転倒への対応、法リスクの見極めの課題を検証するとともに、2024年度診療報酬改定に伴うチームアプローチの意義と方法を共有します。医療安全と、認知症ケアの質向上による尊厳保持の両立を目指し、具体策を探るこのセッションは、介護・医療関係者のみならず、認知症ケアに関心をお持ちのすべての方に必見です。ぜひご参加ください。

S-3「認知症の軌跡を踏まえた支援（フレイル、身体活動、栄養）」

認知症の発症から進行に至る過程において、進行段階に応じた個別支援と包括的アプローチを統合することは、認知症の方々のQOL（生活の質）向上にとって重要な要素です。しかし、急性期病院では、主疾患の治療が優先されがちで、栄養管理や基礎疾患の管理といった身体的側面が後回しにされることが少なくありません。本シンポジウムでは、管理栄養士、理学療法士、看護師がシンポジストとして登壇し、実践的な知見を共有します。栄養管理や身体活動を通じて健康を維持し、QOLを高めるためのアプローチについて議論します。

療養の場所を超え、認知症緩和ケアの未来を見据え、認知症ケアに携わるすべてのの方々にとって、現場で実践できる支援の形を共に探求したいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

S-4「認知症の人とのコミュニケーション～3つの場面から考える～（しゃべり場）企画」

何らかの病気の治療で入院している認知症の人は、様々な苦痛を抱えています。

本企画では、認知症の人の緩和ケアにつながるコミュニケーションについて、以下の3つの場面を取り上げ、演者の皆様にお話しいただきます。

- ① 苦痛を伴う治療や処置をするときのコミュニケーション
- ② せん妄を発症している認知症の人のコミュニケーション
- ③ 意思決定支援の場面でのコミュニケーション

医師・看護師・理学療法士・薬剤師・作業療法士・心理療法士の皆様が、認知症の人のケアニーズをどのようにアセスメントしてコミュニケーションをとっているのか、その実践を共有していただきます。また、参加者の皆さんからの質問やご意見を交えながら、自由に意見交換を行う場としたいと考えています。明日からの実践に役立つヒントを得ていただければ幸いです。